

第 3 回世界防災フォーラムで富士通株式会社と2つのセッションを共催しました (2023/3/10, 12)

テーマ：東日本大震災、仙台防災枠組、市民参加型国際フォーラム

場 所：仙台国際センター（宮城県仙台市青葉区）

URL：<https://worldbosaiforum.com/2023/>

3月10日（金）と12日（日）、東北大学災害科学国際研究所は、富士通株式会社との共催セッション「子供たちと考える未来の防災」および「津波避難の現在・過去・未来—逃げ遅れゼロ社会の実現に向けて」を開催しました。

「子供たちと考える未来の防災」は、災害のない未来はくるのか？をテーマとして、子供たちの柔軟な発想に学びながら、未来の防災と社会について議論するセッションです。はじめに宮城県と神奈川県との3つの小中学校の児童・生徒320人と実施した「防災の未来道具」を考えるワークショップの様態を紹介し、塩釜市立第二中学校の生徒代表3名が防災未来道具のアイデアを報告しました。その後、小説家の伊与原新氏が子供たちのアイデアをもとに書き下ろした「防災未来小説」を、元NHKアナウンサーの杉尾宗紀氏が朗読し、防災の未来について登壇者がディスカッションを行いました。

「津波避難の現在・過去・未来—逃げ遅れゼロ社会の実現に向けて」は、将来の巨大津波や豪雨災害に私たちがどう立ち向かうべきかを考えるセッションです。初めに、東日本大震災における釜石市鶴住居地区での避難体験を、当時釜石東中学校の3年生だった菊池のどか氏にお話頂きました。その後、神奈川県川崎市の防災担当者などを交えて、デジタル時代の防災や関連テクノロジーについて討論を行いました。当研究所からは今村文彦所長が登壇し、津波防災の専門家として他の登壇者と議論しました。

両セッションは、JST 未来社会創造事業「デジタル防災コミュニティの市民参加型研究」の一環として行われました。当日は、「子供たちと考える未来の防災」に64名、「津波避難の現在・過去・未来—逃げ遅れゼロ社会の実現に向けて」に73名が参加し、盛会となりました。



「子供たちと考える未来の防災」登壇者の
記念撮影



セッション「子供たちと考える未来の防災」
の様子



セッション「津波避難の現在・過去・未来—逃げ遅れゼロ社会の実現に向けて」の様子



セッション「津波避難の現在・過去・未来—逃げ遅れゼロ社会の実現に向けて」の様子